

くまもと

366号

日本郵趣協会

熊本支部会報

2022.6

赤崎水曜日郵便局 2013開局

山本純雄

ある日不思議な郵便局宛てに手紙を出した。
人は少しかかわったことで、心に残るものがある。
それは、赤崎水曜日郵便局。



山本純雄 様



水曜日 にご開封してください。

赤崎水曜日郵便局 〒869-5605 熊本県茨城郡津奈木町福浜165番地2の先 <http://akasaki-wed-post.jp>

芦北郡津奈木町にある「つなぎ美術館」が住民参画型アートプロジェクトの一環として企画し、廃校となった地元の赤崎小学校を活用して設置したもので、勿論日本郵便(株)の施設ではない。

この郵便局に、自身の水曜日の物語を手紙に書いて送ると、知らない誰かの水曜日の物語が届く。手紙を通じた一期一会が生み出す^{せつな}刹那的な信頼関係によって知らない誰かと誰かが結ばれるという郵便局。管理人・局長・ポストマンもいる。

概要を述べよう。

1. 2013年6月19日 開局 2016年3月31日 閉局

2. 取扱い郵便数 約1万通

3. 日本郵便(株)との協力

名称、局前のポスト設置、投函された手紙の集配、小型印の押印など

4. 手紙の流通範囲

地元津奈木町をはじめ、北海道から沖縄県及び外国(着信のみ)まで

5. その他

赤崎水曜日郵便局専用封筒 誰かの手紙(文面のみ)を封入し、手紙の主の知らない誰かに届けるための封筒

使用切手 フレーム切手

切手番号：PH24 グラデーション

額 面：82円

図 案：青い海を背景に2つの白い波を用いた郵便マーク(〒)
上段の波上に小学校を描く

消 印：小型印、上部に「津奈木町アートプロジェクト」

中央に海に浮かぶ小学校、下部に日付
取扱いは、水俣局



つなぎ美術館学芸員楠本氏(当時赤崎水曜日郵便局管理者)によると、手紙を書かなくなったこと、地域の繋がりが薄くなったことの現状に於いて、赤崎水曜日郵便局の開局は意義があった。

老若男女1万人には、1万人の悲喜こもごもの日常があった。

手紙は、年配者には懐かしく、若者には新しいという受け止めがある。

また、観光客が増え問い合わせも多くあり、宮城県の鮫ヶ浦で同様のプロジェクトが1年間続くなど数多の取り組みがあり、反響は大きなものがあったとのことである。

惜しむらくは、赤崎水曜日郵便局に届いた郵便にどんな切手や消印が使用されたのか、つぶさに見てみたいところであったが個人情報保護の観点から、それは実現しなかった。実は、ここにも関心の相当部分があったのだが・・・

赤崎水曜日郵便局の開局中には、郵便料金の変更が実施され、封書が80円から82円となった。

1994年1月13日 発行 切手番号522 額面80円 ヤマセミ

2014年3月3日 発行 切手番号710 額面82円 ウメ

以上、2013年津奈木町に開局した赤崎水曜日郵便局の概要についてご説明させていただきました。廃校となった海の上の小学校を郵便局に見立て、無作為に手紙を交換、転送。知らない誰かの水曜日の出来事が綴られた手紙が届きます。

送られてきた手紙の一部は、専用ホームページで公開するほか、住民が朗読しラジオで放送されました。これらの活動は津奈木町が取り組んでいる芸術文化によるまちづくりにおいて、住民が集う新たな「場」を提供する役割も果たしました。

支部報 寄稿分担 予定は、次のようになっておりますので原稿お願い致します。

1月	内野 実	7月	坂本 祥三
2月	切手展の開催	8月	細井 敏幸
3月	蜂谷 紀之	9月	出口 泰文
4月	郷 康弘	10月	姫野 照正
5月	上土井 潔	11月	切手展の開催
6月	山本 純雄	12月	